

学 校 名 江田島市立鹿川小学校

学校長名 坂村 幸三

## 1 研究主題，研究内容・方法等について

## (1) 研究主題

自ら課題を見つけ、探究し続ける児童の育成  
～児童のつまずきに対する、教師の効果的なファシリテートの在り方～

## (2) 主題設定の理由

本校は、広島県教育委員会より「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」の指定を受け、今年度で3年目を迎える。昨年度は、『自ら課題を見つけ、探究し続ける児童の育成～生活・総合的な学習の時間における、児童主体の学習計画の作成と振り返りの充実～』という研究主題のもと、生活科・総合的な学習の時間を中心にプロジェクト型学習（PBL）をベースとした『探究的な学び』を実施し、児童の「主体性」と「活用力」の向上に取り組んだ。

「主体性」については、学習の中に、「選択」と「自己決定」の場を設定し、児童が進んで試行錯誤する経験が増えたことで、「自分で取り組む態度」「目標に向かって努力する態度」「学習への見通しをもつ力」の意識向上が見られた。「活用力」については、前年度に引き続きカリキュラム・マネジメントを実施し、文章の書き方や、表やグラフへのまとめ方など、各教科等で学習した内容を、生活科・総合的な学習の時間で活用する活動を設定したことで、江田島市標準学力調査において、同一集団比較の中で、活用に関する問題の得点の向上が見られた。

一方で、学力が低位にある児童や、学力が伸び悩んでいる児童の様子を分析すると、「非認知的能力（数値化が難しい能力）」と「認知的能力（数値化可能な学力）」の内、「認知的能力」にも課題があることが分かった。双方の定義は以下の通りである。

「非認知的能力」＝テストでは数値化されない能力

- ・「自己肯定感」、「やる気」、「粘り強さ」、「自制心」、「行動力」、「協調性」、「失敗から学ぶ力」、「創造力」等

「認知的能力」＝教科学力の基盤となる能力・テストで数値化されやすい能力

- ・「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」「計算する力」「推論する力」等
- ⇒各教科等の「知識・技能」「思考・判断・表現」を支える原初的な能力。

これらは、各教科等を学ぶ上で土台となる重要な能力である。これらが欠けると、文章を読んでも内容が理解できなかったり、コミュニケーションにおける受け答えが難しかったりするなど、学習に限らず人間関係づくり等にも影響が出てくる。本校では、このどちらか（もしくは双方）に、支援が必要な児童が一定数おり、各授業等における指導改善や、授業外での手立ても想定した指導改善を図る必要がある。

本年度は、生活科・総合的な学習の時間において、児童のつまずきを具体的に想定し、児童がそれを乗り越えるためのファシリテート（教師の関わり方・児童の支え方）の在り方を研究

していくことで、児童の主体性を中心とした「非認知的能力」の向上をねらうとともに、各教科等の知識・技能を支える「認知的能力」の向上をねらう取組も行い、自ら課題を見つけ、探究し続ける児童の育成を目指すこととする。また、小中一貫教育における『小中9年間で育成したい資質・能力』と照らし合わせ、ここでは、「非認知的能力」を「課題発見力」「自主性」「協調性」と捉え、「認知的能力」を「聞く力」「話す力」「推論する力」と捉えることとする。それぞれの具体的な定義は以下の通りである。

「課題発見力」…自分の生活や地域社会の課題に気付くこと。

「自主性」…自分から進んで活動に取り組むこと。

「協調性」…自分や友達の長所や短所を補い合いながら、活動に取り組むこと。

「聞く力」…言葉や文を正確に聞き取る力。

「話す力」…自分の気持ちや考えを、言葉で正確に伝える力。

「推論する力」…相手が伝えたいこと（要点）を理解する力。

### (3) 研究仮説

◎ 生活科・総合的な学習の時間で、プロジェクト型学習（PBL）をベースとした探究的な学びを実施するとともに、授業内外で、児童のつまずきに焦点化した教師の関わり方や児童の支え方（ファシリテート）を見つめ直すことで、児童の「課題発見力」「自主性」「協調性」と「聞く力」「話す力」「推論する力」が向上し、自ら課題を見つけ、探究し続ける児童が育つであろう。

### (4) 研究内容

#### 1 『「課題発見力」「自主性」「協調性」（非認知的能力）の向上』に関する取組

○プロジェクト型学習を基にした、探究的な学びに取り組むことができる単元計画の作成

- ① 単元構想シートを使い、教科横断的な視点で、「課題への出合わせ方」「探究のサイクル（課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）」「振り返りの時間」を明確に設定した単元計画を構想する。【各学年で1単元作成。前年度踏襲も可。】
- ② 単元を通して育成したい資質・能力のルーブリックを作成し、指導改善に生かす。
- ③ 本時の指導において、「児童のつまずきポイント」を設定し、それに対する教師の関わり方や児童の支え方の手立てを具体化し明文化する。

#### 2 『「聞く力」「話す力」「推論する力」（認知的能力）の向上』に関する取組

○「小学校低学年段階からの学ぶ喜びサポート校事業」との連携

- ① 朝の読書の時間や、ドリルタイム、隙間時間等を活用して、認知的能力向上を目指すプリント等に取り組む。
- ② 各授業等で、自分の考えや気持ちを伝え合う活動を設定するなど、「聞く」、「話す」を中心とした協働的な学習を可能な限り確保する。

## 2 検証計画

研究内容	検証方法	指標・達成目標
「課題発見力」「自主性」「協調性」(非認知的能力)の向上	・全国学力・学習状況調査の「総合的な学習の時間」に関する項目を基にした、校内独自のアンケートを全学年で実施(5月・1月の計2回)	・関連するアンケート項目の肯定的評価の割合:85%以上(学校自己評価表との関連)
「聞く力」「話す力」「推論する力」(認知的能力)の向上	・「サポート校事業」における、抽出グループの実態分析 ・国語と算数の単元テストの到達度	・対象児童もしくは対象グループの正答率等 ・到達度の同一集団比較: +5

## 3 校内研修計画

研修内容		日時	講師招聘	備考
理論研修	今年度の研究について	4/12(水)		
	単元構想協議(中学年編)	4/19(水)		
	単元構想協議(高学年編)	4/26(水)		
	「自分タイム」の進め方	5/10(水)		
	学習の進捗確認(月1回実施)	毎月末		研究メンバー中心に
	その他、専門研修から得た学びの共有	未定	必要に応じて	研究メンバー中心に

		1回目	2回目	備考
調査まとめ	児童アンケート(計2回)	5/8(月)~12(金)	1/22(月)~26(金)	※報告書の提出期限によっては、2回目を早め実施する。
	教員アンケート(計2回)			
	研究のまとめ	3/8(金)		

日程一覧				
能美中学校区 研究公開に向けて	単元開発協議 4月26日(水)	指導案検討① 8月30日(水)	指導案検討② 10月18日(水)	研究公開 11月17日(金) 第2学年 第6学年
小学校低学年 段階からの学 ぶ喜びサポ ート校事業	全体研修 5月24日(水)	校内研究授業 11月29日(水)	校内研究授業 1月24日(水)	※変更になる場合有

## 4 研究公開の予定について

公開予定日	令和5年11月17日(金)
タイプ	普及型・提案型・ <b>報告型</b>
公開範囲	広島県を中心とした各校
公開内容等	生活科・総合的な学習の時間における探究的な学習

※ タイプについては、校内研修ハンドブック(広島県教育委員会 平成15年3月)を参照。